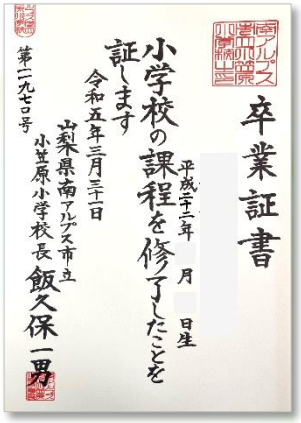
届け 世界の果てまでも

令和５年３月１７日　Ｎｏ．７４　文責　校長　飯久保一男

※今号は６年生保護者のみの配付になります。１～５年生の家庭には配付していません。ホームページでの公開になります。

卒業おめでとうございます！

卒業式での学校長の「はなむけの言葉」（卒業式式辞）の後半部分を掲載します。



卒業生の皆さん，卒業おめでとう。皆さんの旅立ちを心からお祝いします。今年度の皆さんの活躍や努力は，校長通信「届け 世界の果てまでも」７３号で紹介していますので，この場では割愛しますが，一言だけ話をさせてください。

皆さんも私たち教職員も，コロナ禍の学習や活動において，何ができ，何をめざすのかを考え，取り組んできました。私は，口癖のように，行事や活動を縮小したとしても気持ちは縮小しない，制限がある中の最大限を目指すと話してきました。

そんな中，卒業生の皆さんは，授業では，「学び合い」や一人一台端末の「クロームブック」を活用した授業に取り組み，児童会活動や日頃の生活では，下級生のため，学校をよりよくするために取り組んできました。コロナ禍で行事や活動があまりできない中で過ごしたのではなく，制限のある中で，工夫をしてがんばって過ごしてきたのです。特に今年度はよくがんばった１年間でした。

私から卒業生の皆さんへの最後の授業として，小笠原小学校の学校教育目標である「自分を大切にし，他者を大切にする」ことついて話したいと思います。自分を大切にするとはどういうことでしょう。考えはいろいろあり，いくつも答えがあっていいと思いますが，私が考えることの一つを話したいと思います。私は，自分を大切にすることは，自分を成長させていくことだと考えています。「自分はこの程度でいいや」と思っていたら，成長できませんし，自分を大切にしていないと思います。では，自分を成長させるためには，どうしたらいいのでしょう。これもいくつも答えがありますが，三つに絞って話したいと思います。

一つ目は，人の話を聞くことです。皆さんは「あやめっ子タイム」の活動を通して，ニコニコ笑顔で，うなずきながら聞くということを積み重ねてきました。こういう姿勢で聞くことは，話の内容をよく理解し，話す人を大切にすることになります。さらに，話す人は，こんなによく聞いてくれるのならと，話をもっとしたくなります。役に立つことをプラスして話してくれるかもしれません。自分の考えを主張することも大切ですが，まず，聞くことが大切です。それが成長につながると思います。

二つ目は，苦手なこと，面倒くさいことなどを避けたり，後回しにしたりしないことです。自分を大切にするということを勘違いしている人もいます。自分を甘やかすことではありません。苦手なことはやらない，嫌だからやりたくないということは，自分を大切にすることにはなりません。苦手だ，嫌だと思っても，挑戦することで，そこに，自分が成長できるチャンスがあると思うのです。挑戦しないということは，成長するチャンスを逃してしまっているかもしれません。また「自分はこの程度でいいや」と思ってしまっているのではないかとも思います。自分の可能性を自分で閉じてしまうこと，これは，自分を大切にすることではありません。

校長はそう言うけど，苦手だ，嫌だと思うことをやってみたけど，いい結果につながらなかった，成長の機会にならなかったと感じることもあったかもしれません。でも，経験は残ります。以前の校長通信にも書きましたが「今の自分が自分史上最高」です。経験したことが減ることはありません。役に立たなかったと感じた経験が，将来，役に立つこともあるのです。

三つ目は，人を大切にすることです。人のために努力し，気を配ることは自分を成長させます。皆さんが今年一年，下級生のために努力したり，気を配ったりしたことがそのまま当てはまります。友達や下級生が楽しんでくれるのなら，苦手なことでも努力できるということを学んで来たと思います。今年一年，皆さんが成長できたのは，友達のため，下級生のために，努力し，挑戦してきたからです。このことは，小笠原小学校の学校教育目標「自分を大切にし，他者を大切にする」ことのそのままです。

「聞く態度を考えること」「自分を見つめ，苦手だと思うことから逃げないこと」「人のために努力し，気を配ること」そして，「自分の可能性を広げ，自分を成長させていくこと」これらのことが私が思う，自分を大切にすることの一つの答えです。

皆さんには「カッコイー」とはどういうことか何度も話をさせてもらってきました。卒業生の皆さんの「カッコイー」姿は，たくさん見せてもらってきました。卒業式のテーマにあるように，仲間とともに，輝かしい未来に向かって，飛び出して行ってください。そして，自分を大切にし，他者を大切にする，「カッコイー」皆さんでいてください。

私は，みなさんとは３年間付き合わせてもらいました。
皆さんの未来を創る大切な小学校で共に過ごせたことに感謝しています。
小笠原小学校は，いつも皆さんの，母校であり，心のふるさとです。
卒業生の皆さんの輝かしい未来に，幸せなことがたくさんあふれることをお祈りして，
卒業生に贈る言葉といたします。

令和５年３月１７日

小中一貫校南アルプス市立小笠原小学校校長
飯久保一男

６年生にとって，小笠原小学校での６年生の年は今年だけです。繰り返すことはできない大切な１年でした。もし，コロナ禍でなかったら…，と考えないことはありませんが，その大切な１年を，私たち教職員は大切にしてきました。６年生にとって，貴重で大切な１年として，思い出に残るものになっていることを願っています。そして，保護者の皆さんにとっても，この１年間が，同じく貴重な１年となっていただけることを願ってやみません。

６年生の皆さん，卒業おめでとう。
私は，皆さんに出会えたこと，
皆さんと共に過ごせたことに
とても感謝しています。